

1. 評価結果概要表

作成日 2009年3月27日

【評価実施概要】

事業所番号	1273600203		
法人名	特定非営利活動法人秋桜		
事業所名	グループホーム秋桜		
所在地	〒270-1318 千葉県印西市小林4095番地1 (電話) 0476-97-4990		
評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5F		
訪問調査日	平成21年3月27日	評価確定日	5月30日

【情報提供票より】(平成21年3月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費25,000円おむつ代など実費	
敷金	有(300,000円)			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	600 円
	夕食	650 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,600円			

(4) 利用者の概要(3月5日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	60 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千葉新都市ラーバンククリニック、もとの金城クリニック、住吉整形外科クリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成20年にグループホーム、小規模多機能型居宅介護、知的障害者共同生活介護の3事業合築施設となり、新たな歩みを始めている。
この字型の平屋造りで、三事業所を行き来できる。防災設備の充実、動きやすさ等の造りの工夫はゆとりを生みだし、入居者は人のぬくもりの中、穏やかな生活をしている。
全職員は理念のもと、入居者が「当たり前の生活」を営めるよう日々研鑽を積み、入居者に寄り添って、質の高い支援を実現している。家族、地域住民からの信頼も厚く、行政と連携して認知症理解の啓蒙活動等、社会への貢献もしている。地域密着サービスの目指す姿を実践しているホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題はなかったが、日々問題意識をもち、質の向上に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	I. 理念に基づく運営と、安心と信頼に向けた関係づくりと支援の項目に関しては管理者が記入し、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメントと、その人らしい暮らしを続ける為の日々の支援、サービスの成果の項目は、全員で意見を出し合い取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	概ね2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームの現状報告を行っている。意見交換も行っているが、参加メンバーから相談を受ける事が多い。意見についてはホームの会議で検討し、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族との信頼関係が築かれており、家族会や訪問時に率直に言える雰囲気がある。出された意見や要望等はすぐに会議で検討、周知徹底し改善を図っている。ホーム相談窓口と外部苦情申し立て機関の連絡先が重要事項説明書に記載されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	平成20年9月にホームが転居したところで、地域と新たな関係作りを始めている。3事業合築の施設内には地域交流会室があり、入居者と囲碁をしたり、コミュニケーションの場となっている。日常的に、近くの商店街で買物をしたり美容院に行ったり地域との連携を図っている。老人クラブや近くの保育園との交流も盛んに行うとともに、地域の行事等にも積極的に参加している。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中の一人として「その人らしく当たり前の生活が営める」を事業所の理念として掲げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的に理念について触れ、話し合い、日々のケアの中で活かしている。また理念、運営組織の目標についての研修を行っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常の散歩や買物に出かけた時、近所と挨拶を交わしたり、農作物などが届けられている。地域の行事へも積極的に参加し、老人会、保育園との交流も盛んに行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員、評価の意義の理解し、振返りの機会ととらえて全員で取り組んでいる。重要事項説明書では“サービスの質の管理評価”の項目として外部評価の実施、評価結果の公開、改善に向けた活用の情報を記載している。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回会議を開催し、メンバーは地域の代表3名、家族会代表1名、市の介護福祉課職員1名、市介護相談員1名で構成されている。ホームの活動状況、評価の取り組みと結果について報告し、意見交換を行っている。出された意見等はホームで話し合い、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護福祉課等と密に連携をとっている。市と協働で“認知症サポート養成講座”を開催する等、認知症の理解の普及に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会は3ヶ月に1回開催され、近況を報告している。家族の訪問が多く、その際に個々の様子について伝えたり、必要に応じて電話で連絡している。必要な買物は家族に確認の上、立て替えて購入し、毎月請求書を出している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会及び訪問時に意見や要望等は率直に言える信頼関係ができており、出された意見等はスタッフ会議で検討し改善を図っている。ホームを訪れた人が、職員の顔と名前が一致できるような工夫がされるとさらに良いと思われる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は同法人内で行われることが多く、日頃から交流があり、顔馴染みということで、特にダメージがあるということはない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画が立てられている。法人内の研修は毎月1回行われ、研修資料は全員に配布している。外部の研修、講習もスキルに応じ参加できる機会を設けている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県グループホーム連絡会のブロック別勉強会に参加している。同業者とも活発に見学会や、情報交換を行い、そのネットワークを通じてサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は同法人のデイ利用者が多く、馴染みの関係は出来ていることが多い。デイからの申し送り・家族との面談等、1週間かけてアセスメントを行い、安心して入居できるよう努めている。デイの利用者で無い場合は、センター方式アセスメントに基づき、家族に生活歴等を記入してもらったり、面談するなどして人となりを知り、ホームでの生活に馴染めるよう配慮を行う。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が仲間の車椅子を押ししたり、訪問客にお茶を出すなど、力を活かせる機会づくりを心がけている。得意な事を活かし、充足感が得られ、互いに認め合い、共に暮し支えあう関係を作るよう、努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	心身の状態、自立度、生活歴などを詳細に把握することのできる、センター方式アセスメントシートを活用している。また、入居者のホームでの希望や思いをスタッフ全員が共有し、支援にあたっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者・家族の要望・主治医の意見・入居当初に観察された本人の自立状態(できること、できないこと)などをスタッフ会議で議論し、それぞれの意見・要望を反映しながら介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な計画の見直しには3～6ヶ月の期間を置いているが、ケガや急病で入院等変化が生じた場合には、随時見直しを行っている。排泄や食事、入浴など日常的なサービスにかかわる変化に関しては、日々の申し送りノートなどで対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当グループホームは小規模多機能施設と知的障害者ケアホームの3施設が一体化した複合施設であり、それぞれの施設機能の相互活用はもとより、ボランティアの受け入れや通院・外出時の送迎などにあたって相互にサービスを共有できるよう対応している。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院から3週間に1度の定期往診のほか、専属の看護師が毎日の健康チェックを行なっている。その結果は健康チェック表に記録され、スタッフは必ず目を通して情報を共有し、日々の支援に生かしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力病院の支援を得ながら、可能なかぎり、「家」に代わってホームでターミナルケアを行なう基本姿勢である。指針も作成して家族の理解を得ている。家族や主治医など関係者で話し合い、最善の支援ができるよう取り組んでいる。開設以来4名の看取りを行なっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を傷つけるような声かけや対応は絶対にしない、という共通認識はスタッフの間で確立している。また個人情報にかかわる資料は事務所のロッカーに保管するなど、情報管理も徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ボランティア受入れ、介護相談員の訪問、保育園児との交流等が、計画にそって行なわれている。特に予定のない日は、天候や、入居者の希望に基づき、過ごし方を決めている。理念の「当たり前の暮らし」を常に意識し、スケジュールにしばられた生活にならないよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを自分たちの手で作るという方針に基づき、献立の段階から皆で決めている。食材は新鮮さを重視し、近所より差入れされた野菜を用いることもある。買い物も入居者・職員と一緒に行うので、店ともなじみの関係になっている。配膳・食器洗いなども出来る部分を入居者が担っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介助が必要な入居者は、昼間のゆとりのある時間帯に、職員2人態勢で入浴している。そのほかの入居者は、特に時間を決めず、個々の希望に合わせて入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	女性入居者は配膳や洗濯物の取込み・たたみを手伝っている。男性は車椅子を押したり、買い物の荷物持ちをしている。アセスメントを通して出来る事、好きなことを把握しており、個々に合わせた楽しみや役割支援をしている。墨書が得意な人など様々である。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な買い物や近隣の散歩、併設事業所への交流訪問など、外出の機会は出来るだけ多く作っている。週末に外出計画を立て、家族が参加できるような工夫もしている。年間行事として、日帰り旅行や遠方へのドライブなども行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間だけ防犯のため施錠しているが、居室には鍵の設置はない。リビング兼食堂は、幅広の引き戸を開ければすぐ玄関という構造なので、キッチンから入居者の出入りを見守ることができる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平成20年秋に多機能複合施設として新築され、スプリンクラー、消防署への自動通報装置、キッチンのオール電化などを備えている。新築後一度、消防署の指導のもと事業所全体の防災訓練を実施した。災害が起きた場合、複合施設間の職員がどのような協力体制を組んで対応するかの実践的マニュアルづくりを進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の1日の食事量・水分量は記録されており、リーダー職員と看護師が確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3事業所が回廊式につながった中庭部分は、全面ウッドデッキになっており、好天時にはデッキで開放的に食事を楽しむこともできる。リビングは採光も通風も心地よく、日中はリビングでテレビを見て過ごす人が多い。壁には入居者の絵や写真、花などが飾られ、楽しげな雰囲気をただよわせている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋風のクローゼットとエアコンが備え付けになっているほかは、使い慣れた家具や調度品、額などを持ち込み、自分の好きな生活空間をつくっている。ベッドも持ち込みだが、介護用のベッドが必要な入居者にはホーム側でリースのベッドを用意している。		